



こめそどう

米騒動は、なぜ起こったの



米の値上がりにおこった富山県の主婦たちが、米のよそへの出荷を止めようとして起こったんだよ。

1917年3月から、米の値段ねだんが上がり始めました。当時は、第1次世界大戦によって、ヨーロッパやアメリカへの輸出が増えて、景気がよく、また、人口の増加もあって、米の消費量が急速に増えた時代です。一方では、農村から都会へ働きに行く人が増えて、農作業をする人が減り、米の生産量が減りました。これらの事から、米の値上がりが始まったのです。

米の値段の上がり方が速くなった

米の値上がりが始まると、「米を買って、値上がりしたら売って、もうけよう」と考えた人たちが、米を買いまくるようになり、値段の上がり方が速くなりました。大阪での攝津米せつづまい1石こく(約180リットル)の卸売り価格おろしうは、1917年3月には15円でしたが、6月に20円をこえ、翌年よくねん7月には30円をこえました。

富山県で始まった米騒動が、全国的に広がった

1918年7月23日の朝、富山県魚津町うおづ(今の魚津市)の漁家の主婦たち40~60人が、「米の値段が上がるのは、米をよそに出荷するからだから、米の船積みをやめてもらおう」と、海岸に集まりました。27日からは、ほかの地域でも、主婦たちが集まるようになりました。8月3日には、西水橋町にしみずはし(今は富山市内)の主婦たちが、米穀店べいこくてんや米の持ち主の家におしかけ、「米をよそに売らないこと、安く売ってほしいこと」を要求しました。6日には、東・西水橋町なめりかわと滑川町なめりかわ(今の滑川市)の町民が合流して、米の船積み中の船員をおそったり、米の持ち主の家であばれたりしました。

このようにして、富山県で始まった米騒動は、1道3府38県に広がり、9月17日までに、500か所以上で暴動ぼうどうが起こりました。